

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第269号 2021年11月8日

OCHADAI GAZETTE Autumn, 2021



コロナに負けないお茶大の教育

CONTENTS

巻頭特集:コロナに負けないお茶大の教育 1-4	教員紹介..... 7
●ピンチをチャンスに ～コロナ禍でもお茶大らしい教育を～	●千葉 優作先生(基幹研究院自然科学系 講師)
●コロナ禍での留学と国際交流	
●コロナ禍ならではの授業実践例～生活科学概論～	卒業生紹介..... 8
	●南 百合子さん (生活科学部生活環境学科生活工学講座 卒業)
学生のアクティビティ 5-6	附属学校園からのお知らせ 9-10



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

コロナに負けない お茶大の教育



コロナ禍のお茶大の教育について、
教育担当の新井副学長にお話をうかがいました。

ピンチをチャンスに!

コロナ禍でもお茶大らしい教育を

新井 由紀夫

理事・副学長 (教育改革・入試改革担当)

2021年より現職。基幹研究院人文科学系教授を兼務。
専門は、西洋史学、イギリス中世史。最近の著書には、『中世のジェントリと社会』(山川出版社、2020年)がある。

2020年1月、国内で初めての新型
1年半が過ぎ、コロナ禍における教育
感染防止対策に万全を尽くし行う実
今回は、お茶大の新しい生活様式に

コロナウイルス (以下コロナ) の感染者が報告されてから、
も2年目に入りました。お茶大では、Zoomを活用したオンライン授業や
習など、様々な工夫のもと、教育を行っています。
おける教育についてお届けします。

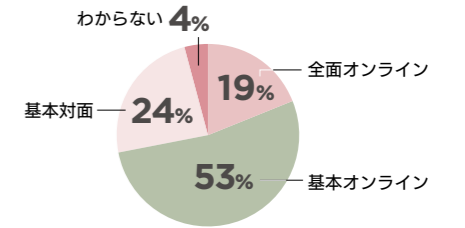


図1 2021年後期からの授業形態の希望

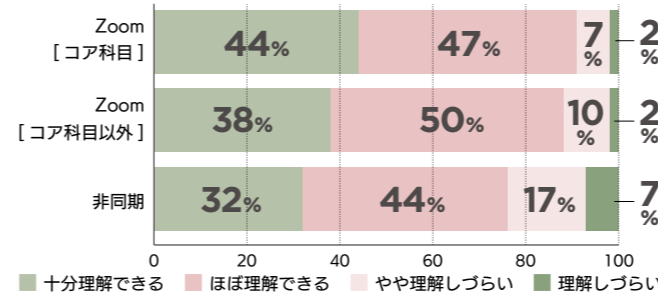


図2 オンライン授業理解度 ※「受講していない」と回答した者を除く

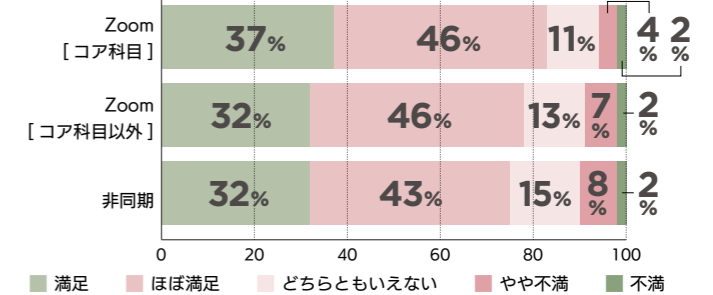


図3 オンライン授業満足度 ※「受講していない」と回答した者を除く

(アンケート実施期間: 2021年7月30日~8月9日/回答者数: 1,429人/対象者: 学部生、大学院生(休学者を除く) 2,807人(回収率: 50.9%))
2021年度後期からの授業形態の希望をたずねたところ、53%が基本オンラインと回答し、全面オンラインとあわせると70%以上の学生がオンライン授業を受け入れていることがわかります(図1)。そこで、理解度と満足度を調べたところ、70~90%が十分理解できる・理解できる、または、満足・ほぼ満足と肯定的な回答をしています(図2・3)。この背景には、授業の様々な工夫があるからだと考えます。

Q コロナ禍の教育も2年目に入りました。お茶大での
コロナ禍の教育の概要をご説明いただけますか。

A このコロナは誰もが経験したことがない出来事であり、これまでの大学の常識が通用しなくなりました。しかし、お茶大は小規模な大学であったことから、教員と職員がどのようにしたら、このピンチをチャンスにもっていけるかと、一致団結して、お茶大のコロナ禍の教育を作ってきました。現在の教育体制の基盤は、2020年3月から2ヶ月間で準備しました。このとき、「教育を止めない」「誰一人取り残さない」ことを基本としました。これは今でも続いています。

Q その2ヶ月間に、具体的にどのような準備が
されたのですか。

A MoodleやPloneといったオンライン非同期型授業のための学修管理システムの強化、そして、新たに、オンライン同期型授業ができるように、Zoomを導入しました。Zoomは我々教員も初めて使う人が多かったため、マニュアルも作成しました。そして2020年度は、5月7日に開講、最初の1週間は学生や教員からの質問が殺到したのですが、2週間後には落ち着き、5月末に学生対象に行ったアンケートでは、オンライン授業の理解度は87%、満足度は80%と非常に高い肯定的な意見でした。さらに、オンライン授業受講環境に困難がある学生に対して、モバイルWi-Fiの無償貸与も行いました。

Q Zoomだけでなく、対面授業もお茶大では
行っていますね。

A お茶大では、「新型コロナウイルス感染防止対策室」を設置し、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動ガイドライン」を作成しています。このガイドラインにそって、授業の方法を決めています。たとえば、レベル1のときは、基本オンライン授業ですが、実験実習だけでなく、専門科目も含めて約4割の科目を対面授業とするブレンド型の授業形態を設定しています。一方、レベル3のときには、全面オンライン授業で対面授業は無しとなります。このレベルは、全国の感染状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染防止対策室が決定します。

Q 先ほどもお話がありましたが、お茶大では頻繁に
学生を対象に授業アンケートを行っています、
どのようなことをたずね、結果はどのように
活用されているのですか。

A たとえば、授業形態に対するニーズは、毎回聞いており、2021年8月に実施した結果では、2021年度後期からの授業形態について、半数以上が基本オンライン授業希望と回答しています。このような授業に対する意見は、教職員で共有し、教育活動に活用しています。他にも、授業のことだけでなく、2021年6月には、経済状態について質問しており、その結果をもとに、みがかずば支援奨学金を創設し、学生支援を行いました。

Q アンケートの結果から、いろいろな学生の声を知る
ことができるのですね。

A もちろん、学生からは肯定的な意見ばかりではなく、きびしい指摘もあります。たとえば、コロナ禍になってから課題が増えたという意見がよく聞かれます。これは筆記テストをレポートに変えた授業が多く、さらに、アクティブラーニングアワー(学生が主体的に学ぶ時間、以下ALH)が導入されたことにもよると思います。この意見は、教員に伝え、課題の量を適正にするだけでなく、ALH課題の実施後はフィードバックを行うなど、学生の学びが深まるような内容にするようにして対応することを推奨しています。現在、ALHの好事例を集め、教員のFD(ファカルティディベロップメント)研修に活用する予定です。



Q そういう取組がコロナ禍の教育でも学生の
満足度が高い結果につながっているのでしょうか。

A オンライン授業だと、学生と教員の1対1になりがちで、授業前後の学生同士のおしゃべりができないといったデメリットが

ある一方、たとえば、実験科目では、実験方法の説明で手元をうつして見せることができる。録画してMoodleにあげることによって、学生が繰り返しみて復習ができるといったメリットがあります。教員の様々な工夫が満足度につながっているのでしょう。

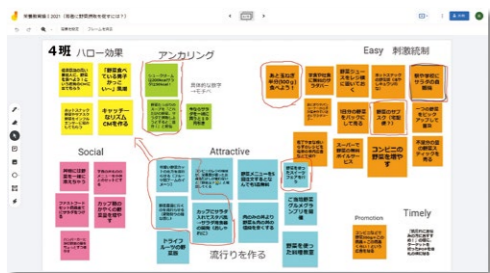
Q 私はよく授業でZoomのブレイクアウトセッション^{※1}
を使って、学生同士が会話できる時間をとっていま
す。GoogleのJamboard^{※2}を活用すると、対面授業
と変わらないグループワークができます。こう考えると、
コロナが終わってもオンラインと対面のブレ
ンド型になる可能性もありそうですね。

A そうですね。それは、どうなるかわかりませんが、コロナ禍でもお茶大の高いレベルの教育を落とさないという気持ちで、取り組んでいます。

※1: 小グループに分ける機能 ※2: 電子ホワイトボードツール

◆◆◆ インタビューを終えて ◆◆◆

お話を伺い、奨学金制度を創設したり、モバイルWi-Fiを無償で貸与したり、「誰一人取り残さない」教育に向けた取組が印象的でした。また、学生の声を取り入れ、コロナというピンチから得られたメリットをうまく活用し、新しい教育スタイルを作っているように感じました。 2021年8月18日実施
聞き手: 赤松利恵(広報推進室長、基幹研究院自然科学系・教授)



① オンライン授業好事例

「Jamboardを利用したグループワーク」(栄養教育論)

JamboardはGoogleが提供する電子ホワイトボードツール。複数人が同時にアクセスし、リアルタイムに内容を共有することができるので、付箋を使ったブレインストーミングもオンラインで行うことができます。画像は、若者に野菜摂取を促すにはどんな方法が考えられるかを議論した際に実際に使用したものの。

担当教員: 赤松利恵教授(生活科学部 食物栄養学科)

② ALH好事例

LA演習「からだのサイエンス」

筋肉や関節の構造についてオンライン授業を行った後に、トレーニングを行っているイラスト資料を配布し、ALHとして実際に自分でやってみて、イラストにかかれた筋肉を意識しやすかった動作と、意識しにくかった動作をあげ、なぜ違いが出たかを論じてもらいました。何となく筋力トレーニングを行うよりも、身体の構造を理解したうえで行ったほうが、より効果的になることを実感してもらいました。

担当教員: 水村真由美教授(文教育学部 芸術・表現行動学科 舞踊教育学コース)



コロナ禍での 留学と国際交流

国際教育センター長の森山新先生に、
留学と国際交流の現状をうかがいます。



森山 新
国際教育センター長、
基幹研究院人文科学系教授
専門は(第二言語としての)日本語教育
学。博士(文学)。最近特にシティズン
シップ教育としての第二言語教育につ
いて研究と教育実践を行っている。

Q お茶大から海外の協定校などへの留学は 現在どのような状況でしょうか。

A 昨年度は全く渡航ができませんでしたが、今年度は文科省の方針転換と本学の海外渡航方針緩和により、3ヶ月以上の渡航を伴う留学が可能となっています。そのため8月以降11名が欧州への準備を進めており、その他の学生も可能性を模索中です。アジアへの留学は主にオンラインで実施される予定で、台湾への留学希望学生がオンラインで現地の授業に参加します。

Q 海外からの留学生の受入れのほうは いかがでしょうか。

A 残念ながら留学生の来日にはまだ困難が多く、オンライン留学を中心に進めています。近年欧州からの留学希望者が増加しているため、時差を考慮し、学生が受講しやすい時間に留学生向けの授業をまとめるようにしています。

実際に留学生が来日する際、昨年度はコロナ禍により入国・入学に必要な手続きのオンライン化が進みましたが、インターネットの整備が十分でない学生があり、一部で手続きが円滑に行えない事態が発生しました。そのため、今年度は来日直後のホテル隔離期間中にオンラインで手続きを可能にするなどのサポートを行っています。

Q 短期の派遣留学プログラムの状況は いかがですか。

A 昨年度は全渡航プログラムが中止となり、オンライン留学のニーズも十分でなく、夏季オンライン短期研修はできませんでしたが、今年度はタイのチェンマイ大で春に実施されたSDGsをテーマとしたプログラムに12名が参加したことから、春学期説明会でオンライン短期留学のよさを参加学生に話してもらい、その結果、夏季にはカリフォルニア大、マギル大、チェンマイ大などの研修に30名近くが参加しました。今年度からはオンライン留学でも本学奨学金が支給されるようになったこともオンライン留学促進につながったと思います。

Q お茶大で開催するサマープログラムの 実施状況はいかがですか。

A 昨年度夏のプログラムは中止となり、オンラインに切り替え2月に実施し、海外から約30名が参加しました。今年度はその経験を生かして準備を進め、時差も考慮して、朝と夕方の方のコースを作りました。その結果、13か国、約80名が参加しました。

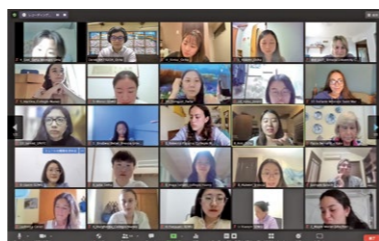
サマープログラムでは日本語コースと社会文化コース(「日本におけるジェンダー」、「自然科学」、「日本の社会と健康」の3コース)が開設されました。日本語コースではオンラインを積極的に活用し、事前個別インタビューを実施したり最終発表会に派遣元大学から先生方を招待したりしました。社会文化コースでは各学部から英語による講義を提供していただくとともに、本学と海外の学生が共に学ぶ環境を作り、学生たちは積極的に参加していました。

Q そのほか国際交流の活動として 重要なものがありましたら教えてください。

A 本学は日米大学間の世界展開力強化事業(COIL)に採択され、積極的に展開しています。昨年度はオンライン開催となりましたが、ヴァッサー大の学生とCOVID-19をテーマに国際学生フォーラムを開催しました。事前にZoomを用いて発表準備や交流、ヴァッサー大教員による特別講義を日米合同で行い、より充実したプログラムとなりました。今年度もオンラインで実施予定です。

また本学学生主導で今年6月に女子大学による"Global Intercultural Dialogue"を開催しました。日中韓米のほか、イタリア、カナダ、パレーン、ペルーから約50名の学生が集まり、女子大学の意義について話し合いました。非常に成功裏に終了し、今後も継続することになりました。

日本文化に関する国際交流オンラインイベントも欧米の大学と実施しています。本学学生は日本文化紹介動画を作成し、先方と共有、討論が行われました。言語の壁を超え発表や討論に参加した結果、留学を考えるようになった学生もいます。



Q 最後に今後の展望をお聞かせ いただけますでしょうか。

A コロナ禍が留学にとって大きな障害となったことは事実です。しかし一方でオンラインの積極的な活用を促し、それはキャンパスのグローバル化をもたらしました。オンライン化により、広範な学生に留学の機会を提供できるようになったことは大きな意義だと思います。今後もこれをさらに発展させ、有効に用い、本学のグローバル化を促進して行きたいと思っています。

聞き手: 小松祐子(基幹研究院人文科学系・教授)

コロナ禍ならではの 授業実施例 ～生活科学概論～

授業の概要

生活科学部の5つの学科・講座の教員が担当し、最後は、講義内容を踏まえて、「afterコロナの時代は生活科学はどのような貢献ができるか」について、全体討論を行いました。
pick up講義:「マスク」について、文系・理系の視点からの講義がありました。まずは、生活科学部がこれの授業です。担当の雨宮先生、難波先生に授業の内容をご紹介します。

お茶の水女子大学の生活科学部は、文系・理系の枠を超えて、幅広い視点から、生活を科学する学部です。学部共通科目である「生活科学概論」では、毎年1つのテーマを決め、分野の異なる教員からそのテーマについて、講義そして討論する授業です。コロナ禍ならではの、学ぶべきこととして、今年度は「コロナと生活」をテーマに授業を行いました。

- 01.オリエンテーション
- 02.コロナによる食生活の変化
(担当: 赤松、食物栄養学科)
- 03.with/afterコロナー身を守る
繊維製品
(担当: 雨宮、人間・環境科学科)
- 04.コロナと精神衛生、リスク認知
(担当: 高橋、心理学科)
- 05.日本におけるスペイン風邪とマスク
(担当: 難波、人間生活学科生活文化学講座)
- 06.Covid-19感染症の
社会経済に与える影響と政策
(担当: 大森、人間生活学科生活文化学講座)
- 07.コロナにおける健康食品の広告
(ゲストスピーカー: 奥原、東京大学)
- 08.ディスカッション

with / afterコロナー身を守る繊維製品 担当: 雨宮 敏子(人間・環境科学科助教)



生活材料の中でも特に衣に関わる繊維を専門としています。担当初回はコロナ禍の衣生活への影響について、衣料品の生産販売や消費活動の変容など、消費科学的な視点で紹介しました。翌週は、身をまもる繊維製品をテーマとし、身近な存在となったマスクについて、材料や構造、捕集の仕組み、性能評価方法を中心に説明しました。後の回で、難波先生が文化的立場からマスクの話がされることを念頭に、異なるア

プローチで話ができればという狙いもありました。まず、ガーゼマスクを分解して1枚から15枚まで重ねた様子、ポリウレタンマスク、ポリプロピレン製の不織布マスクを同倍率の拡大画像で、ウイルスや花粉の直径と共に示しました。学生のコメントでは、不織布マスクの材料を初めて知った人が多く、ウレタンマスクの粗密さや、捕集の仕組みとして繊維間の空隙と粒径の関係だけでなく繊維表面への吸着が関わっていることに驚いたとする記述が多く見られました。どの分野においても製品を構成する材料や性質を知ることが重要で、関心を持ってほしいと思うと同時に、教育する側としての工夫の必要性も感じました。最後に、関連研究や、マスクやアクリル素材の大量廃棄が環境に与える影響について触れました。各分野の教員がそれぞれの視点で講義する本概論全体を通して、生活科学の奥深さや楽しさを感じ、物事に対する多角的な捉え方が身に付くことを期待します。

左上: ウレタンマスク、右上: ガーゼマスク(15枚重ね、一般的な綿ガーゼマスク)、左下: 花粉・ウイルス飛沫対策用不織布マスク、右下: 特に花粉・ウイルス飛沫対策をうたっていない不織布マスク。一口に不織布マスクと言っても目の粗いものなど色々あり、不織布であれば何でもよいということではない。

Voice 受講生の声



生活科学部 人間生活学科1年 黒川 清楓

生活科学部の様々な分野の先生が、コロナや生活という共通の切り口から色々な話をしてくださり、改めて私たちの暮らしについて考えることができました。理系や文系という枠組みにとらわれず複数の視点から生活を見つめ、色々な学科の学生の多様な意見を聞くことができ、有意義な時間でした。



生活科学部 人間・環境科学科1年 菅野 萌々寧

自分がこの一年感じてきた変化や不安に関してわかったり疑問が膨らんだり、自分の生活を多角的に見るような授業でとても面白かったです。今持った視点を自分の生活や学習に生かしていければと考えています。

日本におけるスペイン風邪とマスク 担当: 難波 知子(人間生活学科生活文化学講座准教授)



私の専門は服飾史なので、感染症とマスクの歴史を授業で取り上げました。日本で感染予防のマスクが普及したのは、今からおよそ100年前にスペイン・インフルエンザが大流行したときです。日本国内で45万人を超える死者が出たといわれています。当時はまだ細菌よりも小さいウイルスは発見されていませんでしたが、飛沫により感染が引き起こされることが分かっていました。そこで政府は「人の集まっている場所」でマスクを付けることを呼びかけました。一般市民にマスク着用を促すためにポスターが作成されたり、貧困者に無償でマスクを交付した自治体もありました。昔のマスクは「白」というイメージがあるかもしれませんが、明治期に輸入されたマスク(呼吸器「レスピレーター」)は「黒」でした。インフルエンザが流行した大正期には、別珍(ピロード)や革製のもの、エンジャや紺、茶色などさまざまな色のマスクも登場しました。医学的な知識や技術は当時と現在とでは大きく異なりますが、スペイン・インフルエンザを題材とした小説を読むと、未知の感染症に対する不安やそれに対する人びとの行動に共感を覚えます。これまで人びとがどのように感染症と対峙してきたのか、歴史を振り返ってこれからの感染症との付き合いを考えてみるのもよいでしょう。



左: 大正9年に作成されたマスク着用を推奨するポスター
(国立保健医療科学院図書館所蔵/内務省衛生局蔵、流行性感冒、1922.3.)
右: 最高級婦人用ミツワマスク(個人蔵)

コロナに負けないお茶大の教育

学生のアクティビティ

今年のテーマ：ひらく

2020年、誰もが困難にぶつかり、私たちの日常生活は一変しました。そんな中でも花はひらくように、窓や戸を大きくひらくように、私たちは前を向いて突き進みます。

そして誰もが楽しめる微音祭を目指してよりひらかれた環境を作り上げます。

これまでの歴史や伝統を重んじながらもまた一つ新たなステージへ。2021年、私たちは微音祭の新時代を「ひらく」。



1 第72回微音祭のテーマや込められた想いについて教えてください。

今年度の微音祭テーマ「ひらく」から、皆さまは何を想像しますか? 「ひらく」という言葉には多くの意味がありますが、花や窓が「ひらく」ように希望に満ち溢れた様子、どなたにも楽しんでいただける「ひらかれた」環境づくり、向上心や挑戦心を持ち未来を「ひらく」姿勢など、様々な想いを込めています。

そしてこれらの想いを表現すべく、ロゴには花火のモチーフと窓がひらくデザインを取り入れました。和風な窓からモダンな色の花火が飛び出すデザインでは、伝統の中から未知の可能性が生まれるさまを表しています。先輩方が創りあげてきた微音祭をアップデートさせ、時代に合わせたより楽しめるコンテンツをお届けすることを目指し、委員一同、活動に邁進しています。1年という長い準備期間の末に打ち上げる大花火を、ぜひ皆さまの目でご覧いただければと思います。

ちなみに、微音祭には「きいちゃん」というとっても可愛い公式マスコットがいます。お茶大で生まれた妖精で、お茶大図書館や食堂の前によく出没するのだとか…! 公式Twitterもあるので、気になる方はぜひチェックしてみてくださいね!



2 第72回微音祭の魅力を教えてください。

今年もお茶の水女子大学のミスコンテスト、「水コン」が開催されます。しかし、他大学では多様性やジェンダーの視点から次々とミスコンの中止が決定しており、本学でも水コン開催に対して批判的な意見も寄せられています。

ルッキズム^{※1}を助長しているのではないが、意図的でなくても「理想の女性像」を観覧者に強制するのではないかと、ファイナリストを性的消費の眼差しにさらしかねないのではないか、等の問題が挙げられました。その上で私たち水コン2021運営は、従来のミスコンがはらむそれらの問題に向き合い、解決することを目指しています。

そのために「開花宣言」という、新しい舞台であることを強調するコンセプトを掲げて多くの改革を行いました。例えば、長く連続的であるほどファイナリストの負担が大きくなるWeb投票期間を短くし、フィナーレでは6名全員に対して活動を讃える表彰を行います。また、名前を公表せずに審査するレポート企画やビブリオバトル^{※2}等、昨年まではなかった企画を開催します。詳細は公式SNSアカウントにて発信しておりますが、他にも様々な改革を行います。

総務部局長
小沢 花純 さん
文教育学部
人間社会学科3年



委員長
土田 千夏 さん
文教育学部
言語文化学科3年

コンテスト長
永野 帆乃佳 さん
文教育学部
人間社会学科3年

※1 ルッキズム (lookism)

人々容姿の美醜によって評価し、身体的魅力に富む人々を好む傾向を指す表現

※2 ビブリオバトル 公式ルール

1. 発表参加者が読んで面白かった本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分行う。
4. 全ての発表が終了した後「どの本が一番読みたくかったか?」を基準として投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャン本』とする。

※水コン2021では公式ルールを一部変更して行います。

11月13日(土)、14日(日)に開催される

お茶の水女子大学学園祭「微音祭」

微音祭実行委員の3人にインタビューをしました!

ホームページURL

<https://kiinsai.sakura.ne.jp/>

お茶の水女子大学 第72回微音祭「ひらく」

企画紹介

委員会企画



Twitter アカウント

お茶の水女子大学微音祭
実行委員会72nd
@kiin72nd

きいちゃん@お茶の水女子大学第72回微音祭
@kichan_kiinsai

Instagram アカウント

お茶の水女子大学微音祭
@ocha.kiin



学生のアクティビティ



教員紹介

Tiba Yusaku
千葉 優作

複素数の魅力

基幹研究院自然科学系・講師の千葉優作先生にお話をうかがいました。千葉先生は、学部では理学部数学科、大学院では理学専攻数学コース/領域のご所属です。



卒業生紹介

Minami Yuriko
株式会社みらい創造機構 南 百合子

略歴
2005年3月 お茶の水女子大学生活科学部生活環境学科生活工学講座卒業
2007年3月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了
2007年4月 東京電力株式会社入社
2017年5月 株式会社みらい創造機構入社(現在に至る)



R1 ご出身、ご経歴などについて教えてください

私の出身地は秋田県湯沢市というところです。人口の少ない小さな町なのですが、菅義偉総理(9月現時点)の出身地ということで最近では知られるようになりました。小学生のときに秋田市に引っ越して、そのまま高校まで過ごしました。その後は東京大学に進学し、東京大学数理科学研究科で博士課程を修了しました。博士修了後は東大や東工大で研究員・助教を務め平成29年の4月から本学に着任しました。

R2 専門の研究についてお話を聞かせてください

専門は多変数関数論です。これは複素数に対して定義されていて、複素数に値をもつような関数を研究する分野です。特にそのような関数の中で正則関数とよばれる特別な関数を中心に調べます。ここでは正則関数がどのようなものか、多少は数式を使って説明したいと思います。数式が苦手な方は申し訳ありません。なんとなくでも雰囲気を読えられればと思います。

2乗して-1になる数を虚数*i*といいます。虚数は英語でimaginary numberといい、その頭文字をとって*i*と呼ぶわけ

です。複素数とは虚数と実数を用いて表される数で、実生活でこのような数を目にすることはまずないでしょう。なぜこのような奇妙なもの考えるのかと疑問に思われるでしょうが、実は複素数を考えることによって物事が単純になることがあります。例えば X^2+Y^2 という2次式は実数の中では因数分解できませんが、複素数を使うと $(X-iY)(X+iY)$ とより簡単な1次の式の積に分解できます。さて、 $f(X,Y)$ という二つの変数をもつ関数に対してラプラス方程式というものが、

$$\left(\frac{\partial^2}{\partial X^2} + \frac{\partial^2}{\partial Y^2}\right) f(X,Y) = 0$$

という形をしています。式の意味は、 $f(X,Y)$ をXの関数とみて2回微分、Yの関数とみて2回微分したものを足し合わせると0になるということです。ラプラス方程式を満たす関数は調和関数と言って、物理学でも頻りに現れる基本的な関数です。先程と同様に、複素数のおかげでラプラス方程式を

$$\left(\frac{\partial}{\partial X} - i \frac{\partial}{\partial Y}\right) \left(\frac{\partial}{\partial X} + i \frac{\partial}{\partial Y}\right) f(X,Y) = 0$$

と分解することができます。ラプラス方程式より簡単な方程式

$$\left(\frac{\partial}{\partial X} + i \frac{\partial}{\partial Y}\right) f(X,Y) = 0$$

を満たす関数こそが正則関数です。正則関数は調和関数よりも基本的な存在ともいえます。複素数や正則関数の不思議さや奥深さは尽きることが無いように思えます。

R3 ご専門を選択したきっかけについて、お聞かせください

高校の頃に数学者の伝記をいくつか読んで数学の世界に強い憧れを持ちました。

大学では数学を勉強しようと決心して進学したのですが、初めのうちは高校数学と大学数学とのギャップに大変戸惑ったことを覚えています。そんな中、学部2、3年時に習う複素解析は明快な主張の定理が多くてわかりやすかったので、好んで勉強していました。複素解析には大きく分けて一変数関数論と多変数関数論という二つの分野があり、私は後者を専門に選びました。これはなぜかという私が複素解析を習った先生が多変数関数論の専門家だったからです。このように専門を決める最後の一手は偶然によるものなのですが、今こうして研究を続けていられることを考えると悪くない選択でした。

R4 お茶大生に向けてのメッセージをお願いします

自分が興味を持てるものを大切に、それを伸ばす努力をしましょう。最初は興味がなくても、続けていくことで楽しくなっていくことがあります。数学でも新しいことを勉強するのは大体苦しいものです。しかし、分からないなりに考え続けることが大事で、段々と考えることが苦でなくなり、そんな状態が続いているといつの間にか理解してしまい、その対象を好きになることがよくあります。ですので現在興味を持てるものがないという方も、苦しくても最初のうちは我慢して何かを続けてみるといいのかもしれないと思います。

コロナ禍で様々な制限を受ける中、皆さんも本当に苦労されていると思います。私も教員としてできる限りサポートをしますので、コロナに負けず前向きに学生生活を送られることを祈っております。

文責：基幹研究院自然科学系教授 森 義仁

R1 現職に就くまでの経緯を教えてください

環境問題に関心があり、また、祖父が建築系の仕事をしていたことから、「省エネ住宅」に興味を持って、進学先を決めました。大学院でも環境工学の研究をし、自社建物を多数保有しており、自社や顧客に対する省エネを推進していた東京電力へ入社しました。東京電力では、建築系のインハウスエンジニアとして4年間、設計～工事監理に携わっていましたが、毎年予算を使って建設工事を行うだけでなく、会社に利益をもたらすことがやりたいと業績面談などで話していたところ、関係会社に出向となり、経営企画の仕事をするようになりました。出向先では、会社規模も異なり、出向者ではないメンバーもいる中で、親会社と連携しながら会社を俯瞰して方針をつくる立場になり、大企業のグループとしての経営戦略構築や、大企業がグループで新しい事業を創っていく場を経験することができました。

その後、東京電力で一緒に仕事していた先輩が独立してベンチャーキャピタルであるみらい創造機構を起業し、声をかけていただいて現職へ転職しました。当時、省エネなどエネルギーサービスを提供する子会社の経営企画に出向して、仕事自体は充実していましたが、大企業の枠組みの中ではなく、スタートアップや多様な企業とオープンに事業創造していく新しいフィールドに惹かれました。また、長男が3歳になるところだったので、コロナ前ながらテレワークが導入されていて、自由な働き方ができそうだったことも転職を決めた理由の一つです。

R2 現職でのお仕事の内容を教えてください

キャピタリスト/ブランドマネージャーとして活動しています。みらい創造機構は2016年5月に東工大と社会連携活動の推進に向けた組織的連携協定を締結し、東工大関連のベンチャーを中心に投資を行うベンチャーキャピ

タルです。キャピタリストとして、投資先となるベンチャーの発掘から、投資検討、投資後の経営支援まで行っています。ベンチャーの経営者はそれぞれ自分や社会の課題を解決するために全身全霊で挑んでいる人ばかりなので、そういった人の伴走者として役に立てるよう情報提供したり議論したりしていくことは、とても清々しいです。まだまだ勉強中ですが、これまでの経験から、建設テックやクリーンテックの領域に注目しています。また、女性の起業家・投資家は非常に少ないので、共通の概念が伝わる人として、女性起業家の支援も積極的に行っていきたいと考えています。ブランドマネージャーとしては、会社の広報・ブランディングとして、プレスリリースを発信したり、コーポレートサイト、自社メディアの企画などを担当している他、起業する人や新規事業を増やしていく活動として、大企業向け起業人材育成プログラムの立ち上げや、Z世代向けのジェンダーや女性の課題をテーマとしたビジネス創出プログラムの運営なども行っています。

R3 大学や大学院で学んだことは現職でのお仕事にどのように活かされていますか

お茶大に入学した時、省エネ住宅へ興味があった私は、住居学よりも物理や化学の授業が多いことに面食らっていたのですが、そのおかげで、現在、技術系ベンチャーに事業について伺う際に、そのベンチャーが保有する技術につい

て、ある程度の内容は理解することができています。お茶大や大学院で学んだ環境工学の知識は、昨今ESG投資の流れからカーボンニュートラル等に関わるベンチャーに注目が集まっている中で、事業を理解する基礎として幅広く学んでよかったと思います。

R4 在学生へメッセージをお願いします

現在、投資先の建設DXのベンチャーの社外取締役も務めているのですが、前職の建築系インハウスエンジニアの仕事で経験した設計～工事監理の知識や現場での体験が非常に生きています。大学院に入った時はお茶大での化学の授業は特に役に立たなかった、また、転職の際はインハウスエンジニアの経験は役に立たないと思っていましたが、そうではなく、これまでの様々な経験が点と点で結ばれるように、次のキャリアにつながるものなのかもしれないと感じています。

時間の制約なくたくさんのことに触れられる時期なので、ちょっと興味のある授業や課外のコミュニティ活動などに首をつっこんでみたら、未来の自分をつくるひとかけらになるかもしれないので好奇心を持って試してみたいと思います。

文責：人間発達教育科学研究所助教 今泉 修



わたしのオフタイム

たまにしか行けませんが、結婚式をしたフレンチレストランへ旦那さんと食事に行くのが特別な休日です。最近息子2人を初めて連れて行って見たのですが、今後しばらくは旦那さんと2人で行こうと思いました(笑)



附属学校園からのお知らせ

～附属小学校便り～

コロナ禍2年目の小学校の学校生活

昨年度は、2ヶ月余りの休校に始まり、分散登校や短縮授業、マスクの着用やこまめな手洗い、ソーシャルディスタンスの徹底、登校時にはサーマルカメラで検温など、先の見えない中、試行錯誤しながら感染対策に取り組んだ1年でした。

日々の健康観察を丁寧に行い、家族を含め体調不良がある子は無理せず休むといったことに対して、保護者の皆様にもご協力いただいたお陰で、無事に過ごすことができました。

一日も早い感染の収束を期待して日々過ごしているものの、今年度も未だ平穏な日常の学校生活とはいかない状況です。そんな、コロナ禍2年目の小学校の様子をご紹介します。

昨年は中止にした行事なども、withコロナでできることを考え実施していこうということでスタートした今年度。5月末には、2年ぶりに運動会を実施しました。



2年ぶりの運動会



感染症対策など様々な課題がある中で、今年度は、保護者の参観は無しとし極力参加人数を減らしつつ、運動・スポーツを通じた交流ができるよう、運動会を午前(1・3・6年)午後(2・4・5年)の2回に分けて実施しました。また、丸1日というこれまでのプログラムを見直し、ねらいに基づき、種目は学年種目とたわり班での種目のみにしぼりました。

ねらいは、学校行事としての教育的意義を考え、「運動・スポーツを通じた交流の場として、また、学校行事を自分たちの手でつくる学びの場として運動会を実施し、心身の健康の保持増進や今後の豊かなかわりのきっかけをつくる」と設定しました。

短い期間ではありましたが、4月から運動会当日に向けて、上学年が中心となって、自分たちが運動会で

楽しみたい種目を自分たちでつくりました。子どもたちは、感染症対策を意識し、どうすればできるだけ接触することなく、運動会を楽しむことができるかを考えていました。十分な距離をとって楽しめるもの、個人の参加を積み重ねてチームで競えるようになるものなど、たくさんのアイデアを出し合いながら、この環境下でできるスポーツを創り出していました。当日も、種目の運営や係活動に熱心に取り組む様子が多く見られ、子どもたちとともにつくる運動会が実施できたのではないかと思います。

マスクをしながら声を出さずに拍手で応援の運動会は、熱中症も心配されましたが、暑すぎず雨も降らずと天候にも恵まれ、無事に終わることができました。



分散型の授業参観

例年6月の下旬に土曜参観を行うなど年に数回授業参観を行っていましたが、密を避けられないということで、昨年度は一度も実施できませんでした。今年は、少しでも参観していただく機会を設けたいと考え、6月の後半、5日間で計9つのブロックに分けて、1授業の参観者数を各学級7～9名に限定して実施しました。限られた時間ではありましたが、子どもたちの学校生活の様子を保護者の方に直接観ていただくことができました。

子どもたちにとっても、嬉しさ緊張の入り交じった励みとなる時間となりました。

今年度の4月から9月までの中で緊急事態宣言が出ていなかったのは、4月8日に新年度が始まって4月24日までと、6月21日に解除されて7月12日に4度目の宣言が発出されるまでの計5週間余り、登校日数にしてわずか27日。5、6年生の林間学校や1、3、6年生の郊外園活動などは、残念ながら中止となってしまいました。変異株が流行し、まだまだ制約の多い中ですが、これから安心・安全な環境をつくりつつ、少しでも充実した学校生活ができるよう工夫していきたいと思っております。



朝の検温実施中～



附属学校園での出来事 (2021年7月～9月)

【いずみナーサリー】

- 7月
 - 七夕遊び
 - 水遊び・プール遊び
 - 避難訓練(地震・午睡中)
- 8月
 - 水遊び・プール遊び
 - 避難訓練(地震・水あそび中)
- 9月
 - 個人面談
 - 避難訓練(首都圏大地震・引き渡し及び安否確認訓練)

【附属幼稚園】

- 7月
 - CAP講習会(4歳児保護者向け)
 - 誕生会(7月8月合同)
 - 七夕
 - 終業式
- 9月
 - 始業式
 - 教育実習(後期2週間)
 - クラス懇談会
 - 誕生会(9月10月合同)
 - 避難訓練
 - PTAつぼみ会主催講演会

【附属小学校】

- 7月
 - 避難訓練
 - 個人面談
 - 終業式
- 9月
 - 始業式
 - 栄養教育実習
 - 卒業生のお話を聴く会(オンライン)(5年)

【附属中学校】

- 7月
 - 第1回学力テスト(3年)
 - 帰国保護者の会
 - 学年別保護者の会
 - 終業式
 - 帰国編入検定
 - オープンスクール
- 9月
 - 始業式
 - 第11期教育実習
 - 第2回学力テスト(3年)
 - 自主研究講堂発表会
 - 生徒祭
 - 路線別会合

【附属高校】

- 7月
 - 筑波大附属高との合同キャリアカフェ
 - 保護者の会(1・2年対面 3年:Web配信)
 - 学力テスト(1・2年)
 - お茶大英語によるサマープログラム
 - 終業式
- 8月
 - 東工大サマーチャレンジ
 - 学力テスト(3年)
- 9月
 - 始業式
 - 第11期教育実習
 - 第2回学校説明会(Web配信)
 - 文化祭
 - キャリアガイダンス(2年全員)
 - 2年進路講演会(オンライン)
 - 上野千鶴子氏講演会



お茶の水女子大学学報 第269号

発行日：2021年11月8日

発行：国立大学法人お茶の水女子大学 東京都文京区大塚2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105 FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp URL：https://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、本学ホームページにも
掲載していますので、どうぞご覧ください